

## 宮川路線を継承し更なる発展を

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会会長 岩井隆興

この度、宮川前会長の突然の辞任をうけて総会で会長に選任されました。学識経験が豊かで指導力に秀でた宮川前会長に比し、浅学非才の私に果たして会長職が務まるであろうかと悩みましたが、幸いにして前会長が考えていた組織づくりがこの総会で正式に次のような構想で成立しました。

常任理事を2人から複数名として常任委員会を設置し、集団指導体制と申しますか、基本方針はこの委員会で企画立案し、理事会でさらに協議決定して執行いたします。専門委員会として、会報は編集委員会、主な活動であります講演会は講演会委員会、見学会は見学会委員会が設置され、すでに昨年度より機能し始めています。

それに加えて、「日本の祭り研究クラブ」「まち歩き研究会」「古道探索倶楽部」などのクラブ活動にもこれまでに多数の方が参加されて活発に活動されておりますので、前会長の残任期間であります1年間はなんとか務まることと思ひ引き受けさせて頂きました。

会の目的であります博物館との連携のもとに会員相互の知識向上を図ると共に親睦を深め、館の事業発展に寄与して参りたいと思ひますので、今後とも宜しくご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

宮川前会長には、平成18年の行政改革により県内の博物館施設8館が4館に再編整備されようとしている時、危機感をいただいた当時の高橋一夫館長に依頼され、友の会を立ち上げ、それ以来11年の長きにわたって会を運営し、今日の友の会を作り上げたことに対して心から敬意を表したいと思ひます。

さて、私事で恐縮ですが、今年の会報2月号で『明治天皇の氷川神社御親祭150年を迎えて』と云う拙文を載せて頂きましたが、当博物館では、明治天皇氷川神社行幸150年を記念して、来年1月2日(火)から2月12日(月)まで特別展「明治天皇と氷川神社一行幸の軌跡―」が計画され、氷川神社行幸に関する美術品や歴史資料、明治天皇御料の品々から、幕末・明治時代と氷川神社行幸の歴史など紹介するとのことでした。

また、さいたま市立博物館でも、10月7日(土)から11月26日(日)まで特別展「氷川神社―大いなる宮居の歴史―(仮)」が計画され、古代から明治天皇氷川神社行幸までの、氷川神社の歴史について、氷川神社や社家などに伝えられる古文書などの資料をもとに紐解くとされています。氷川神社に多少の関わりのある私にとっては、記憶に残る年となりそうです。

## 今後のイベントスケジュール \* 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 6月23日(金) まち歩き研究会『蕨市の歴史と文化』 <前号で紹介>
- 7月9日(日) 博物館共催講演会『山岳信仰の歴史と民俗』 <今号で紹介>  
講師: 鈴木正崇先生(日本山岳修験学会会長・慶應義塾大学名誉教授)
- 7月9日(日) お祭りクラブ『江の島八坂神社海上渡御・ひらつか七夕』 <今号で紹介>
- 7月19日(水) プレミアム講座『本多静六以前の大宮公園』 <今号で紹介>
- 8月27日(日) 友の会見学会『浅間山天明噴火の遺跡巡り』 <7月号で紹介>

### 友の会の通常総会を開催しました

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会通常総会を平成29年(2017年)5月27日(土)午前10時から博物館講堂で開催いたしました。

28年度事業・収支報告について斉藤副会長より、29年度収支予算案については中村副会長よりそれぞれ説明。新年度事業計画案については西本豊司常任理事より説明されました、平成29年度収支予算(案)については中村会長代行より説明がされました。会員の意見などを受け、友の会への会員からの情報提供については、今後、取組む。また、講演会回数の基本は6回とする(昨年度の9回は異例ということ)などの方針説明がありました。

規約の改正案については、会則10条の役員構成の変更提案について中村副会長より説明があり「会長1名、副会長3名、常任理事2名、理事30名以内」の中で「常任理事2名」を「常任理事を複数名」と改正することで承認されました。目的は友の会の事業を集団体制で行うためです。

会長の選出については、4月9日(日)の理事会で現副会長の岩井隆興氏を満場一致で会長候補に推薦していましたが、総会でも満場一致をもって承認可決されました(巻頭に新会長あいさつ文、6ページに収支報告を掲載しています)。



### 友の会からのお知らせ

#### 友の会の活動にご参加ください

- ◎友の会のすべての事業・運営は会員のボランティア活動で行われています。会報『JUNO』の製作や印刷、発送も会員が集まって毎月行っています。
- ◎簡単なことから事業(見学会、講演会、クラブ活動)の企画運営まで、あなたもぜひ、余暇時間を「友の会」のためにお割きください。お手伝いのお申し出も、上記の友の会の受付へ、お声かけください。

#### 『JUNO』にエッセイや旅行記・書評などの原稿を送ってください。

- ◎友の会の機関誌『JUNO』で広く会員の皆様の原稿を募集します。内容は自由ですが、友の会や博物館活動に関連したもので、300~400文字程度。編集委員会で検討の上、誌面に掲載します。内容・テーマにより巻頭エッセイへの掲載をお願いする場合があります。送り先は「博物館内友の会」あて郵送。またはEメールで [pu8n-tki@asahi-net.or.jp](mailto:pu8n-tki@asahi-net.or.jp) まで。

### クラブ活動 今後の予定 (参加者募集)

## 大國魂神社例大祭「くらやみ祭」を見学

友の会・お祭りクラブ 5月5日に開催

天候にも恵まれ、東京都府中市の武蔵総社・大國魂神社例大祭「くらやみ祭」に出かけてきました。大國魂神社は1900年以上前に創建され、武蔵国内の6つの神社の祭神を合わせ祀ったことから「六所宮」と呼ばれていたそうです。JR武蔵野線府中本町駅12時30分に10名が集合し、府中市郷土の森博物館に直行。

(中略) 行事スケジュールに合わせて、博物館を2時に出発し、道清めの儀並びに太鼓送り込みの見学を行う。1時間ぐらい、各宮の6張の大太鼓が随神門内と拝殿前送り込まれる威勢のよく打ち鳴らされる音・姿に魅入る。大國魂神社御旅所がある「高札場」に着き、夕食を摂り本日のクライマックスである、神輿渡御を鳥居前の交差点で陣取る。交差点は整理のアナウンスをする警察官と実行委員会の声が騒々しい。花火を合図に各宮ごとに行列・大太鼓・神輿と続く。17時頃、三ノ宮神社の神輿(さいたま市氷川神社)を見届け駅に向かう。(詳細はブログで)



## 鎌倉街道を訪ねて《赤山街道・越谷道をたどるシリーズ その1》

友の会・古道探索倶楽部 6月3日に開催



6月3日に実施、天気快晴。参加者28名。全体の説明のあと、赤山城跡に向かいました。空堀跡をへて赤山城跡の碑がある場所で、説明と撮影しました。その後、赤山日枝神社をへて、首都高の下を歩き安行西立野道標へ。あたりは現在開発中の場所も多く新しい道ができていました。長栄町天満宮を見た後に、一の橋の近くにある長栄中央公園で昼食です。桜の木の下が空いていたので、木陰で涼しく昼食をいただきました。

その後、大沼大明神社では隣の廃寺跡とみられる所の無縫塔らしきものをみました。出羽センターにて小休止の後、武蔵野線をくぐって稲荷神社・観照院へ、ここは「かみの稲荷」と呼ばれているそうです。その後、三ツ谷地蔵の角を曲がり下七佐稲荷神社へ、こちらは「しもの稲荷」と呼ばれているそうです。七佐町はもともと七左衛門村で、ここの「かみとしもの稲荷」だったそうです。その後、東武スカイツリーライン南越谷駅・武蔵野線新越谷駅へ行って解散しました。次回の第20回「赤山街道・越谷道 その2」は9月30日(土)東武スカイツリーライン北越谷駅→大川戸杉浦陣屋跡(バスで、東武スカイツリーラインせんげん台駅)の予定です。(詳細はブログで)

## ◆江の島八坂神社海上渡御と湘南ひらつか七夕まつり(平塚市他)◆

7月9日(日) 友の会「日本の祭り研究クラブ」第22回見学会のお知らせ(参加自由)

《名称》江の島八坂神社海上渡御と湘南ひらつか七夕まつり(平塚市他)

《期日》7月9日(日) 10時00分~17時00分:雨天決行

《集合》JR東海道線「藤沢駅」改札出口 午前10時00分

《費用》交通費(電車等),保険代他100円

《持物等》歩き易い靴並びに飲物・カメラ等

・「八坂神社海上渡御」は江の島神社境内社ですが、京都の八坂神社と同様に、祇園精舎の守護神・牛頭(ゴズ)天王を祀る社です。毎年7月に行われる神幸祭は(江の島天王祭)八坂神社と腰越の小動神社の神輿が、年1回、海上渡御を行う勇壮な祭りです。・「湘南ひらつか七夕まつり」は、戦後の産業振興策としてはじまり67回目。約500本の絢爛豪華な七夕飾りが中心街を埋め尽くします。10m級の大型七夕もあり、パレードも盛大。

《申込み》下記の連絡先までお願い致します。

《連絡先》元木孝 TEL:0493-54-0401(携帯090-2259-1673)

★ 次回予定、11月5日(日)「時代まつり」(埼玉県嵐山町)

5/26(金)のまち歩き研究会「朝霞編」は悪天候のため中止になりました。秋に延期して再度募集を行います。  
6月23日(金)の「日本一小さい「蕨市」の歴史と文化」は開催します。ご参加ください。  
中止の場合(Eメールの方には連絡予定)各自ご判断ください。連絡は不要です。

# 山岳信仰の 歴史と民俗

山と信仰から日本の文化を考える

秀麗な姿と厳しい自然をもち、同時に多くの恵みをも与えてくれる山々は古くから人びとの信仰の対象であり、密教や修験僧などの修行の場でもありました。日本における山岳信仰—その長い歴史とさまざまな民俗から、現代人の生き方までが見えてくるのではないのでしょうか。

**講師 鈴木正崇 先生** 日本山岳修験学会会長  
慶應義塾大学名誉教授

**日時** 平成29年（2017年）7月9日（日）午後1時半～3時

**場所** 当館講堂 東武アーバンパークライン（東武野田線）  
大宮公園駅下車徒歩5分

**参加費用** 300円

お申込みは **往復ハガキ** に、①名前②住所③電話番号④イベント名⑤会員の方は会員番号—を明記。返信面に①名前②住所—を記入し、6月30日（金）までに「〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。質問・ご意見もお書きください。なお、締切前でも定員150名を超えた場合はお断りすることがあります。当日は往復ハガキの返信面をお持ちください。

< 6/1からハガキ、往復ハガキの料金が変更になっています。ご注意ください。往復ハガキ=124円 >

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

# 本多静六以前の大宮公園

## ～明治・大正期の氷川の杜～

“ふみこんで帰る道なし萩の原”（正岡子規） 当館の建つ大宮公園内を歩くと、歴史解説板の句が目にとまります。明治24年9月に滞在した子規が詠んだ句との説明に想像が膨らみます。他にも樋口一葉、夏目漱石、永井荷風ら多くの文人が訪れました。今回は、会員に親しみ深い大宮公園の開設について。大正期に拡張・整備を指導した本多静六は有名ですが、それ以前に開設に関わった庭園師 かそん 佐々木可村に注目します。

講師の水口さんは、平安～鎌倉の日本考古学がご専門ですが、今年度から展示と、収蔵資料の調査・活用を総括的に担当され、魅力ある博物館を目指して努力されています。

講師 水口 由紀子 氏 当館主席学芸主幹

とき 7月19日（水） 午後1時半～2時半

ところ 当館講堂 **ご参加無料**

申込方法：他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキ（62円に料金改定）に、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。締切：7月12日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会  
返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。

**埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会**

平成28年度収支報告書					自 平成28年4月 1日	
					至 平成29年3月31日	
収入の部						
項 目	予算高	決算高	予算比	備 考	資金管理明細	
前期繰越金	688,626	688,626	(単位千円)		(29年3月31日現在)	
年 会 費	1,054,000	1,090,000	36		りそな銀預金	57,724
半年会費	31,000	31,000				
事業収入	1,700,000	1,972,600	272		郵貯銀預金	1,462,277
雑 収 入	5,000	76				
小 計(ア)	2,790,000	3,093,676	303		振替口座残高	231,986
合 計	3,478,626	3,782,302			現 金	0
支出の部						
項 目	予算高	決算高		備 考	合 計	1,751,987
運営費関連						(力+キ)
会 議 費	100,000	105,972	6			
旅費交通費	95,000	90,370	▽ 5		※仮受金 29年度年会費	
備品・用品	150,000	153,951	4			
通 信	650,000	670,275	20			
印 刷	5,000	1,202	▽ 4			
交際費	10,000	0	▽10			
手数料他		484				
小 計(イ)	1,010,000	1,022,254	12			
事業費関連						
講 演 会	300,000	383,618	83			
見 学 会	1,300,000	1,359,843	59			
イ ベ ント						
小 計(ウ)	1,600,000	1,743,461	143			
観覧券購入金(エ)	180,000	230,600	50			
積 立 金	200,000	200,000				
予 備 費	488,626	585,987	98			
合 計(オ)	3,478,626	3,782,302	303			
次期繰越高(カ)	668,626	785,987	98			
仮受金 (キ)		966,000				
期中収支	3,093,676-2,996,315=97,361					
	(ア)	(イ+ウ+エ)				